

Title	太田先生から学んだ「米国政治の基本」
Sub Title	
Author	足立, 正彦(Adachi, Masahiko)
Publisher	慶應義塾大学法学研究会
Publication year	2009
Jtitle	法學研究：法律・政治・社会 (Journal of law, politics, and sociology). Vol.82, No.4 (2009. 4) ,p.199- 201
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	特別記事：太田俊太郎先生追悼記事
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00224504-20090428-0199

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

太田先生から学んだ 「米国政治の基本」

太田俊太郎先生の米国政治の講義を初めて受講させて頂いたのは、たしか法学部政治学科二年在学中の一九八七年（昭和六二年）春の日吉キャンパスであったと記憶している。翌八八年春から三田キャンパスで太田先生の第二三期ゼミ生の一員として九〇年三月に卒業する迄の二年間、太田先生に御指導頂いた。太田先生は米国大統領選挙直前の八八年秋から半年間、カリフォルニア州で研究生生活をお送りになられたため、「現代アメリカ論Ⅰ」と「現代アメリカ論Ⅱ」の講義は同年の前期に集中して行つて頂いた。これらの講義は非常に刺激的で、私にとって今でも忘れたくない素晴らしいものである。

先生の講義の中で、特に、個人的に強い印象を受けたのは、米国建国時の政治理念と実際の政治制度の構築について、トマス・ジェファソンらの建国の父祖らの意図について基本から御指導頂いた点であり、大統領選挙人団制度（エレクトoral・カレッジ・システム）に大きな

焦点を当てられた講義であった。独立当時の一三州の大州と小州との政治的思惑や建国の父祖らの構想と現実について、太田先生から徹底的に学ばせて頂く非常に貴重な機会を得た。このような経験は、大学卒業後に、社会人として民間セクターで日米通商摩擦案件などの米国政治に関わる業務に従事する上で大変有益であった。また、二〇〇〇年大統領選挙当時、ワシントンDCに勤務させて頂いていたが、ジョージ・W・ブッシュ共和党大統領候補とアル・ゴア民主党大統領候補との大統領選挙戦はフロリダ州での再集計作業を巡る連邦最高裁裁定により決せられ、最終的には、ブッシュが大統領選挙人獲得数の過半数を上回る二七一名を獲得し、一般投票獲得数ではゴアに約五〇万票下回りながらも勝利するという歴史的选择を現地で経験することができた。在学中、太田先生は、「一般投票獲得数では相手候補に敗北しても、大統領選挙人獲得数で勝利し、次期大統領に当選することは理論的には起こりうる」と大統領選挙人団制度に関する講義の中でお話しされていたが、そのことが正に起こったのである。当時の先生の講義を思い出しながら、異国の地で先生の講義を微笑みながら振り返ったことがあった。

また、太田先生には、米国のリベラリズムと保守主義の系譜についても基礎から御指導頂いたことも大変印象深く思い出される。世界大恐慌に対するハーバート・フーバー共和党政権の保守理念に基づく政府不介入の対応と、ニューディール政策を導入して積極的財政出動を行ったフランクリン・ローズヴェルト民主党政権との対応を比較しつつ、現代米国のリベラリズムと保守主義の考え方の違いを御指導頂いた。講義の際に配布して頂いたフーバー大統領の保守理念が明確にされた演説のコピーを用いながら講義は開始され、大統領権限の拡大や大統領補佐官制度の導入、ウォーターゲート事件後の議会の委員会議制度の大幅改革、「分断政府」の常態化、共和党内の各勢力分析など実に広範かつ有益なテーマを次々に取り上げて頂いた。

太田先生は、非常に謙虚かつ温厚な教育者でもあった。ゼミ生一同で新潟県湯沢で夏にゼミ合宿を行ったことがあったが、先生を囲んで八八年大統領選挙展望について議論しながら楽しく過ごしたことも懐かしく思い出される。また、太田先生は若き日にハーバード大学に留学なされていたが、留学中の一九六三年一月二二日にジョン・F・ケネディ大統領がダラスで凶弾に倒れたことを

同大学キャンパスで突然知らされ、同暗殺事件が当時の米国社会に与えた衝撃などについても御自身の貴重な体験に基づいてのお話しを伺ったことなども思い出される。ゼミでは御自身の学生時代の御苦労と比較しつつ、一九八〇年代後半の経済的に恵まれた時代に学生時代を送った我々に対し、我々の時代がいかに幸せであるかについてお話をされながら、社会に飛び立っていく我々に自らが信じる道を歩んでいくことの大切さなどについてもお話して頂いた。

慶應義塾卒業から既に一九九年の歳月が経過しようとしている。太田先生の強い要請でご後任として慶應義塾で、長年、米國政治の御指導を頂いた久保文明東京大学教授の研究會などの末席に現在参加させて頂いているが、太田先生が久保先生を慶應義塾に招いて頂かなかつたら、現在、私が久保先生の御指導を頂いていることはない。また、久保先生のご後任として慶應義塾で御指導頂いている岡山裕准教授にも研究會などで御一緒させて頂いており、久保先生や岡山先生のような方々との出会いは太田先生がいらっしゃらなかつたら実現しなかつたであろう。民間のシンクタンクのはしくれの一人として、現在も米國政治関連の業務に従事させて頂いているが、私の

「米国政治の基本」は慶應義塾在学中に太田先生の御指導により形成されたものである。

太田先生、どうぞ安らかにおやすみ下さい。

住友商事総合研究所

北米担当シニアアナリスト

足立正彦